総合心理学部の教学理念

総合心理学部の教学理念は、人間と社会・文化との関係についての深い思慮と、複雑な課題を切り拓く勇気と実行力を備えた未来社会の主体を育成するために、人間の心と行動を探求する心理学とその方法、人間の総合的なあり方を探求する人文社会科学などの関連分野を教育することです。この教学理念は、次のような時代認識と本学部の教学の基本的仕組みに基づいています。

予測困難な時代の中で、家庭、学校、企業、地域社会、国際交流など生活の様々な場において、少子化や多文化化など個々人の選択や個々別々のアプローチだけでは対応できない事象が拡大し、「人間」の総合的・現実的理解に基づいてく公共的で総合的なアプローチが求められています。また生命科学など科学技術の飛躍的な発展によって、人間の生活の全ての場面で、科学的・技術的な操作や介入が可能になり、様々な選択が可能になってきました。現代において「人間とはなにか」「幸福な生き方とはどのようなものか」という問いは、個人の問いであるとともに公共的な問いになっています。

こうした状況の下で、心と行動の科学的解明を軸として人間の総合的かつ現実的な理解に基づいた対応できる人材が求められています。また高等教育と研究機関がこうした人材養成に積極的に応えることが求められています。心理学の教育・研究は、人間の心と行動の過程を探求することによって、人間の知的解明に貢献できるだけでなく、人間の総合的・現実的探求にかかわる隣接諸科学と連携して、教育・研究、福祉・医療、行政、企業、国際活動などの分野において、現代の複雑な社会的諸課題の解決に貢献することができます。

本学部の教学の仕組みは、①心理学を総合的に教育・研究するとともに、②隣接諸科学の教育・教養教育・外国語教育との連携によって、総合的な人間力を育成するという、二つの柱によって成り立っています。

本学部の教学の第一の柱は、「心理学を総合的に教育する」ということです。総合科学としての心理学を教育する学部は我が国においてまだほとんど類例がありません。本学部は、基礎心理、応用心理などの心理学の基本的な諸分野を総合的に教育します。

本学部の教学の第二の柱は、人文社会科学など隣接諸科学の教育、また充実した教養教育、さらに先進的な外国語教育を展開することによって、全体として「総合的な人間力を育成する」ことです。本学部は、心理学の人間研究と、人文諸科学や社会諸科学の人間研究とを架橋し、また充実した教養教育、先進的な外国語教育を行うことによって、ますますグローバル化する現代社会に求められる総合的人間力を育成します。

人材育成目的

総合心理学部は、心理学の総合的・体系的な教育と、隣接する専門分野の教育・教養教育・外国語教育を通じて、人間の心と行動に関する専門的力量と人間理解に関する幅広い教養を具えて、教育・研究の分野、福祉・医療の分野、行政・企業の分野などにおいて、複雑化する課題の解決に貢献する人材の育成を目的とする。

学位授与方針（ディプロマポリシー）

総合心理学部では、人材育成目的に向けて、卒業時において学生が身に付けるべき能力（教育目標）を設定しています。所定の単位（124 単位）の修得をもって、教育目標の達成とみなし、学士（心理学）の学位を授与します。

1. 心理学の諸分野の基礎知識に基づいて、人間の心と行動を科学的に探求し思考することができる。
2. 幅広い教養に基づいて、心理学的知見を他の分野の知見と関係づけて、人間を総合的・多面的に理解することができる。
3. 人間と人間関係について多面的な関心をもち、個性と多様性を尊重しつつ他者と協働し、問題解決に貢献することができる。
4. 日本語と外国語の基本的なコミュニケーション能力をもち、情報やデータを加工し分析する基礎的能力を身に付け、自らの見解を論理的に主張することができる。
5. 大学で修得した成果に基づいて、職業人や市民として社会に貢献しようとする倫理観と、学び続けようとする意欲を身に付けている。

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

総合心理学部では、教育目標を達成するために、次のような教育を行います。

(1) 人間の心と行動を科学的に探求し思考する力を養成するために、心理学の総合的・体系的教育を行います。
(2) 人間を総合的に理解し関わるために、心理学的知見を他の分野の知見と関係づける幅広い教養を育てる教育を行います。
(3) 問題解決に貢献する力と態度を形成するために、人間と人間関係について多面的な関心を育て、個性と多様性を尊重しつつ他者と協働する教育を行います。
(4) 自らの見解を論理的に主張する力を養成するために、日本語と外国語によるコミュニケーション能力、情報やデータを加工し分析する力を形成する教育を行います。
(5) 大学で修得した成果に基づいて、職業人や市民として社会に貢献しようとする倫理観と、学び続けようとする意欲を育てる教育を行います。

総合心理学部の教育目標は次のようなカリキュラム上の工夫として具体化されています。

1.「人間の探求」を中心目標としたカリキュラムの体系化

心理学の諸分野の系統的・総合的な教育と、隣接する人文・社会科学などの教育を連携させて、「人間の総合的理解」を達成します。

2. 学習者が自分の成長を確認しやすくするための工夫

専門科目と外国語科目は、ユニットで分かりやすく配置されており、より高度な科目はアドバンスドユニットとして明示されています。

3. ユニット制による自由度が高くグローバルな学び

専門科目の3ユニットおよび6つの領域、履修モデルの2つのガイドを利用して多様な学び方ができます。本学部での心理学の学修は、11 ユニットおよび教養科目の学びと6つの履修モデルによって行われます。想定する進路を意識しながら基礎ユニット、専門科目の各ユニット、アドバンスド科目の各ユニットなどを組み合わせて学ぶことができます。将来、公認心理師の国家資格取得を目指す人は、公認心理師科目を履修し大学院へ進学します。専門科目における3つのユニット（認知・行動ユニット、発達・キャリアユニット、社会・文化ユニット）は取得するべき単位数の縛りのない、領域の組み合わせという緩やかなまとまりとして構成されています。

4. 充実した実験実習とフィールドワーク

本学部では、専門性に基礎づけられた学習（Discipline Based Learning）とともに、課題解決型の学習（Problem Based Learning、Project-Based Learning）などのアクティブラーニングの方法を学部の基本的な学習スタイルとして位置づけます。本学部でのアクティブラーニング（PBL など）の第一の柱となるのが、実習・フィールドワーク系の科目です。本学部の充実した実習施設を活用して系統的に編成された実習科目と、地域や現場と連携したフィールドワークにより実感と深い納得をともなった実践力を養成する教育を行います。

5. 発信力の形成とスキルの形成を組み合わせた先進的な英語教育

学習プロジェクトの発表とスキル形成学習を組み合わせたPBL 型の授業によって、心理学の学修と結びついた実践的な英語能力と他者と協働する力を形成します。PBL 型の英語教育科目は、本学部でのアクティブラーニングの第二の柱となります。

6. 1回生から4回生まで各回生での演習と卒業論文必修

本学部でのアクティブラーニング（PBL など）の第三の柱となるのが、小集団で行われる各回生の演習科目です。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「展開演習」「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を1回生から4回生まで開講し、丁寧な小集団教育によって、専門的な学力とともにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、幅広い応用力、他者と協働する力を育成します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

総合心理学部では、本学部の人材育成目的と教育目標に共感し、本学部で学ぼうとする強い意志を持った学生を求めています。このため、入学時点において以下の学力、関心などを有することを求めます。

1. 高等学校などの教育によって修得した基礎的な学力を有していること。特に、国語と外国語に関する知識、理解力や表現力を有していること。
2. 数学、社会、理科などの分野における知識や思考力を有していること。
3. 人間の心と行動、現代における人間の在り方についての問題に関心を有していること。